

# りいぶる

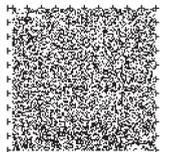
表紙デザイン作者：浦谷真<sup>まこと</sup>タさん  
(イラストレーター、和歌山県有田市出身)

“りいぶる”はフランス語で「自由な (libre)」という意味で、当センターの愛称です。

今号の  
注目記事

- ◇ りいぶるフェスタ 2024 渡貫淳子<sup>あつこ</sup>さん講演会  
ジェンダー平等推進啓発ポスターコンクール最優秀賞表彰式
- ◇ 和歌山のチカラ
- ◇ 「みんなにジェンダー平等」提案事業

センターニュースりいぶるはスマートフォンアプリ、Uni-Voice (ユニボイス) により文字情報を提供しています。  
アプリをダウンロードのうえ、ご利用ください。



# りいぶるフェスタ 2024

日時 令和6年11月17日(日) 会場 和歌山ビッグ愛1階大ホール

## 講演会

### 「南極ではたらく ～かあちゃん調理隊員になる～」

講師 <sup>わたぬき</sup> 渡貫 <sup>じゅんこ</sup> 淳子 さん (調理師 第57次南極地域観測隊調理隊員)



講師は、1年4か月間の南極地域観測隊員としての体験から南極の風景やオーロラの動画などを交えながら、南極への道のり、南極での気づきやコミュニケーション、食の重要さなど多岐にわたって語られました。

出産、子育てを機に仕事を辞め専業主婦として暮らしていた講師は、ある日新聞記事がきっかけで南極を目指すようになりました。はじめ周囲の皆が南極行きに反対だったのが、希望を口にしていると次第に協力者が増え、不安も払拭され自信がわいてきたと言います。そして3回目のチャレンジで採用。「NOの理由より、YESの可能性を」と人生の変化もチャンスと捉え、自分の可能性を否定せずに生きたいと話されました。

南極での生活は、電気や水、食材などの制限に加え、生活排水やゴミの排出にも厳しい制約があり、環境への自身の意識も随分変わったそうです。

そんな制限や制約の中、調理では四季が感じられる食事を工夫され、胃袋を満たす以上に心を満たすよう心がけたと話され、メンタル面で不調の人への食事によるサポート、食べることで生まれるモチベーションやコミュニケーションなど「食事」の持つ力についても紹介されました。

南極で得たコミュニケーション術について、「挨拶」、「相手の声を知る」、「自分から話しかける」ということが大切だとし、そうすると信頼関係が生まれ、仕事のストレスが減り心の余裕に繋がるのではと語られました。

最後に、南極ではどんな仕事も男女の区別なく皆でするので、力仕事ではどうしても体力差を実感したと言います。同時に男性のなかにも力仕事は得意でないのに当然のようにそれを求められるなど、男女にかかわらずいろいろな思いを抱えていることを知ったと話されました。そして、苦手でも自分ができるところを考え、最低限、相手を尊重する気持ちがあれば、職場でも社会でも、もっと豊かな表現ができ、お互いを認めることができるのではないかと結ばれました。



## 「ジェンダー平等推進啓発ポスターコンクール最優秀賞表彰式」

【小学生低学年の部】

【小学生高学年の部】

【中学生の部】

【高校生の部】



ひらおか リマ 平岡 稟麻 さん  
和歌山大学教育学部 附属小学校 2年



こだま はな 兒玉 花菜 さん  
和歌山大学教育学部 附属小学校 4年



まつむら ももか 松村 桃香 さん  
田辺市立 東陽中学校 1年

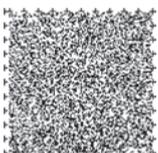


つじもと ゆきみ 辻本 由希美 さん  
和歌山県立 和歌山商業高等学校 1年



辻本さん 兒玉さん 下副知事 平岡さん 松村さん

受賞された皆さま、おめでとうございます♥



# 絵本の読み聞かせ講座

～絵本っていいな～

読み聞かせを楽しもう！

講師：坂口 佐知子さん（和歌山県立図書館司書）令和6年9月13日（金）“りいぶる”図書・交流スペース

講師はまず、「絵本とは子どもが最初に出会う本で3つの力〈言葉〉〈絵〉〈物語〉は人間として生きていくために必要な力です」と話されました。次に赤ちゃんにはコーティングされた安全・衛生的な本を与え、2、3歳児には紙の本が破れるものであると、物の大事さを教えるなど、発達年齢に合った本の選び方の説明がありました。

また、原話と現代版がある本は、成長に大事な語りかけがある原話を選ぶことを推奨されました。読み聞かせについては、子どもが絵本っておもしろい、もっと読みたい、読んでほしいと思う気持ちを大切にしながら読むことが大事だと述べられました。読み聞かせの具体的な注意点を実演しながら説明され、また、絵本に載っている実験を参加者も一緒に楽しみながら話が聞けました。

最後に、「絵本は知りたがる道を切り拓き、想像力をわきたたせ、言葉を豊かにする。そして思いやりの心も育まれるので、子どもに沢山の本と出会わせてあげてください」と結ばれました。

【参加者の声】「絵本は子どもたちの心が育ち感受性を豊かにする力があることがステキだと思いました」「どうしてもキャラクターものを選びがちだったのですが、古くからのよい絵本もたくさん読んであげたいと思いました」



## 和歌山の千カラ ～今、この人に会いたい～

大正14(1925)年2月24日生まれ、今年100歳を迎えられ、今なお現役で医師として働く笠松光さん。そんな笠松さんの人生の歩みを伺いました。



笠松 光さん  
医療法人 喜望会  
笠松病院 医師

### 1. 医師を目指したのは、何かきっかけがあったのですか？

私は4人兄妹の末っ子ですが、上の姉とは9歳も離れていたもので、一人っ子のように育ちました。生まれは、東貴志村（現：紀の川市）です。

私が女学校（和歌山県立和歌山高等女学校）に入学した昭和12年に日中戦争が始まりました。ご近所では戦争で夫を亡くし苦勞している女性がいたため、父親が「こんな時代だから、女も手に職をつけておいた方が良い」と言って、それなら医師がいいだろうと。当時、関西では医専（大阪女子高等医学専門学校、現：関西医科大学）しかなく、女学校から8人受験し、2人合格したのです。

### 2. 医専の学生時代はどうでしたか？

学校は大阪の枚方だったので、寄宿舎に入っていました。とにかく食べるものがなかった。戦時中より戦後の方が食糧の確保が大変でした。昭和22年に卒業し、その年からインターン制度が始まって、住友病院（現：和歌山ろうさい病院）だけが受け入れてくれたので、そこで10ヶ月。そのあとは御坊市の保健所で1ヶ月研修しました。国家試験を受けたのはそのあとです。その頃は国家試験が年に1回で、発表日が決まっていなかったんです。親戚が新聞に載っていると知らせてくれて合格を知りました。昭和23年の8月30日でした。

私の家は田舎だったので空襲の被害も少なく恵まれていましたが、同級生のなかには戦争で家族を亡くすなど苦勞している方が多かったです。戦後、バングラデシュで医療活動をし、帰国後は岡山のハンセン病療養所で働いていた人や、開業せずに保健所勤めをしていた人、医専を卒業しても医師として働かず結婚した人もいました。

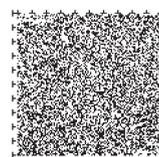
### 3. インターン終了後に結婚されましたが、結婚後、仕事と家事の両立はどのようにされてきましたか？

結婚相手も医師で、当時、この笠松病院（海南市船尾）は救急指定病院だったので、夜中に手術することも多かったです。私は内科医ですけど、どんな患者さんにも対応しました。手術が終わったらもう夜が明けていて、そのまま子どもたちのお弁当を作ったこともあります。大変だったのは、医師の仕事だけでなく病院経営でしょうか。確定申告などの税務も担当していて、そういう時はストレスで胃が痛くなったこともありました。今の病院を建てるのに、土地の売買の交渉などもしたりね。家事や子育てもすべてやりました。

### 4. ご自身の人生をふり返って、どのようなことが大変でしたか？

そうやねえ、大変なことはあったかもしれないし、その時は本当に大変で一生懸命やったかもしれないけど、『考えて解決するなら考えるけど、どうしようもないことは考えても仕方がない。なんとかなるわ！この前もなんとかなったんだから！』と暢気に捉えていました。小学校入学の昭和6年に満州事変が、女学校入学の年に日中戦争が始まり、女学校5年生の時に大東亜戦争がおきて…大変な時代を生きてきたもんやな…と思います。でも、父の勧めで医専に行ってもよかったと今も思っています。

元気の秘訣はたくさんの野菜と塩分控えめの食事。そして趣味のピアノ。終始笑顔でお話くださり、笠松さんが自然体で生きてこられたご様子がうかがえました。





## 紫式部、“人生の選択”

～『源氏物語』に込められた思いとは?～



令和6年10月5日(土)  
会場：“りいぶる” 会議室A

講師：山本 淳子さん（京都先端科学大学国際学術研究院教授）



講師は、まず「源氏物語」に登場する光源氏の境遇と恋の遍歴について説明し、現代の社会通念で考えると登場する女性たちは光源氏から性暴力、窃盗、誘拐などの被害を受けているなど、女性研究者の視点で「源氏物語」の解釈が変わってきたと話されました。

続いて、「恋しい」という言葉には、手に入らない対象を切なく求める気持ちが含まれていると説明。物語のなかで光源氏は3歳のときに母を亡くし、母を恋しく思う気持ちから、その身代わりを次々に求めますが、紫式部も幼いころに母や姉、さらに亡き姉の身代わりのように慕っていた幼なじみや結婚後わずか3年で夫を亡くした切ない思いを光源氏に重ねることで、物語を書くことに心を傾けていったのだと語られました。

最後に、紫式部は物語のなかで、自身の人生、実体験や思いを、登場人物を通して描き「人生は恋や愛など苦の繰り返しだが、それでも誰かに恋し、愛しながら生き続けていく。そういうものだと思いつくながらも、その時にどう主体的に生きるかが大切なのだ、なぜなら、それが人生の普遍なのだから」という結論にいきました。



【参加者の声】 「愛や恋、人の生き方の話がとても心に響きました…生き方を考えてみたいです」「ややこしく感じていた人間関係や立場、気持ちが理解しやすくなりました。もう一度読み直したいと思いました」「光源氏の人生と今を重ねました」

能登半島地震から学ぶ

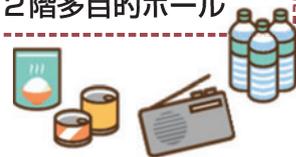
## 多様な視点で取り組む

令和6年10月26日(土)

会場：海南保健福祉センター  
2階多目的ホール

きっと役立つ！

## 防災講座



講師：齊藤 容子さん（人と防災未来センターリサーチフェロー）  
関西国際大学客員教授

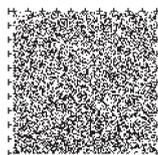
最初に、防災は発生時→発生後→復旧・復興期、さらに減災・防災期のサイクルを考えて取り組むことが重要であること、災害への備え・対応にマニュアルはなく、一人一人、地域ごとに必要なことが違うことが「多様」ということであり、個々に「違う」ことが当たり前の社会こそ災害時に強みを発揮する。そのため自分たちに合った正解を、自分レベル・家族レベル・地域レベルでそれぞれ考えていくことが必要であることを話されました。なかでも、避難所について、トイレの環境が整っていないことで水分補給をためらい、脱水症状を経て誤嚥性肺炎をひきおこし、ひいては「災害関連死」となる可能性が大きく、日本は「災害関連死」が多いため、事前の対策が人の命を救う上でとても重要だと強調されました。

また、災害時であれ、どんな状況でも、人が人として尊厳のある生活ができるよう守られるべきだと述べられました。災害時は命を守ることが優先だからといって人権を後回しにしていいわけではないということ、また避難所は、そこに避難している人たちだけのものではなく、物資や情報を得るための地域の核となる施設であって、在宅避難者も避難所を頼って良いことを地域で共有しておくことが重要とのことでした。

最後に、平時にどのような社会であるかが災害時に現れるため、今自分たちが住んでいる社会について考えることが大切なのだと言われました。



【参加者の声】 「自分をもっと関わり、家族、職場で災害についてもっと話し合う必要があると痛感した」「準備の大切さ、一人一人の尊厳を意識することの大切さを学ばせていただきました」「まず自分が動くことが必要と考えました」



“りいぶる” 語り合い広場

多様性の時代、女性議員が増えると世の中どう変わる？  
～クオータ制<sup>\*1</sup>・パリテ法<sup>\*2</sup>を考える～

令和6年11月9日(土)  
会場：“りいぶる” 会議室A

講師：岩本 美砂子さん(三重大学名誉教授)

女性の議員が少なく多様に乏しい政治事情を背景に、女性の政治参加が少なかったことで女性の人権がないがしろにされてきた歴史や女性議員の存在意義を、リプロダクション(生殖)、DV<sup>\*3</sup>、性犯罪に分けて話されました。

リプロダクション分野では、かつて女性不在の議会で制定された法律により、いかなる事情でも中絶は犯罪とされヤミ中絶が横行したことや強制不妊手術について等、身体の権利や安全が保障されず女性の人権が守られなかったこと。DVに関しては、法務省が新しい制度は不要としたが、参議院共生社会調査会の女性議員が頑張って、DV防止法を作ったこと。そして性犯罪については、女性の法務大臣就任後、刑罰も重くなり、時効も長くなって、親告罪<sup>\*4</sup>から非親告罪へ変更されたこと。また、1907年の刑法旧強姦罪では「性被害」は「貞操の侵害」とされ、加害者は男性、被害者は女性に限定されていたが、男性も被害者になりうると改正されたことにも言及されました。

最後に、女性議員を増やすには、育児や介護との両立可能な労働条件、ハラスメント予防、経済的不利な女性が立候補しやすいように供託金をなくして一定数の立候補賛同の署名を条件とする、地方議員から増やすなど改善案も提示されました。

<sup>\*1</sup> 割り当て制    <sup>\*2</sup> 男女同数の政治参画を規定するフランスの法律    <sup>\*3</sup> DV：ドメスティック・バイオレンスの略。配偶者やパートナーからの心身への暴力。  
<sup>\*4</sup> 親告罪：被害者の告訴がなければ検察は起訴することができない罪。



魅力ある女性リーダー養成講座

令和6年8月22日(木)  
会場：“りいぶる” 会議室A

Part 1 リーダーシップ講座&  
ロールモデルによるパネルディスカッションと交流会

講師&コーディネーター：本庄 麻美子さん(和歌山大学経済学部准教授/キャリアコンサルタント)

パネリスト：坂田 和歌子さん 小西化学工業株式会社 研究部研究グループグループマネージャー  
兼営業部開発営業グループグループマネージャー  
池添 美加 さん 株式会社キャリア・ブレスユー 取締役  
芝田 夕子 さん 株式会社島精機製作所 トータルデザインセンターシステム開発グループ課長代理



最初に、少子高齢化の急激な加速にともない女性リーダーの育成が求められていると話され、経済を発展させるには①男女ともに②介護や子育てをしながら皆で効率よく働く③多様な能力・価値観をもつ人材が求められている。さらに、「人生100年時代」の今、生涯を通して自分でキャリアを築いていく時代だと説明されました。そんななか適していると考えられるのが「サーバント・リーダー」であり、必要な資質として「傾聴」「共感」「癒し」「気づき」の4つを挙げられ、女性の方がこの資質を持っていることが多いと述べられました。



坂田さん 池添さん 芝田さん

パネリストの3人からは、「同僚や部下の話は傾聴するようにしている」「業務に支障がない範囲で個々のやり方で進めてもらう」「一部のスタッフに仕事や負担が偏らないように進捗状況を確認するようにしている」など管理職としての心がけを話してくださいました。

Part 2 スキルアップ講座 「アサーティブコミュニケーションを学ぶ」

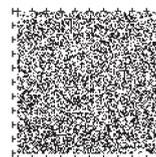
令和6年9月5日(木)  
会場：“りいぶる” 会議室A

講師：谷水 美香さん (ヒューマン・トータルバランスサポートりんと代表  
アサーティブコミュニケーショントレーナー/精神保健福祉士)

講師は、『アサーティブ』とは自尊尊重の対話によるコミュニケーションのことで、自分の要求や提案を相手の真意を確認しながら、誠実に率直に伝えて問題解決を図っていくスキルであり、お互いの自己表現の権利を大切にしながら成立するものだとして説明されました。更に、人には「攻撃型」「受身型」「操作型」というコミュニケーションの「癖」があり、自分のタイプを知ることが重要であると解説されました。

参加者は、グループワークで問題点を明確にし、ロールプレイングを交えて具体的に話し方を練習しました。また、アサーティブ実践の心構えを知り、伝える前の内容整理を行うことで、スムーズに伝えることができると学びました。

最後に、アサーティブ実践において、何を伝えるか(内容)、どう伝えるか(方法)、なぜ伝えるか(目的)、伝えた後にどのような状況になっていることを望むのかを具体的にイメージしておくことが大切だと述べられました。今日すぐにでも活用できるコミュニケーション術を学ぶことができました。



講座レポート

大学生等キャリアデザイン講座

ジェンダー平等ワールド・カフェ

～大学生等と”若手“社会人の本音ミーティング～

令和6年10月19日(土)  
会場：“りいぶる”会議室A



金川さん

講師・ファシリテーター：金川 めぐみさん (和歌山大学経済学部学部長／教授)  
オブザーバー：本庄 麻美子さん (和歌山大学経済学部准教授)



本庄さん

今年和歌山大学や信愛大学などの学生15人、若手社会人7人が参加しました。参加者は個々に「未来想像シート」を記入し、講師の金川さんによる男女共同参画社会ミニミニ講座では提示された具体的な数字から日本社会の男女格差について考えました。国際的に見て日本の夫婦間の家事・育児時間が妻に偏り過ぎていることや2020年までに「日本社会のあらゆる場面で指導的地位に占める女性の割合を30%にする」という目標は達成されておらず、身近にも金川さん自身が和歌山大学創立以来、初の女性の学部長なのだという話がありました。これには参加者から驚きの声があがりました。

それらの現状を踏まえて、ワールド・カフェ\*形式で『男女の違いや共通点』、『理想の未来の実現のためにどうするか』を話し合いました。 ※小グループで席替えをしながら議論を深めていく手法のワーク。あたかも参加者全員で話し合っているような効果が見られる。

グループの発表より

理想の未来の実現のために！

- ◆ワーク・ライフ・バランスを重視し、着実にお金と人脈を
- ◆軸を決めて行動しよう！
- ◆地道な努力



参加者にインタビュー

- ・社会人になってからの方が男女格差を感じています。生きていくうえで、選択肢は多い方がいいと思います。(社会人)
- ・具体的な男女格差を知って、今の日本社会をどうにかしないといけないと思いました。自分も取り組んでいこうと思います。(大学3年生)
- ・普段考えていなかったけど、講座で改めて自分の将来を考えました。(大学4年生)



女性に対する暴力をなくす運動期間(11月12日～25日)

パープルリボンキャンペーンを開催！！

2024年テーマ

「DVや性暴力の悩み、受け止めてくれる人がきつという。」

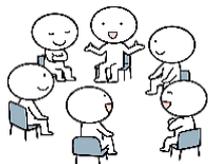


今年のメッセージボードは、暴力を雨に例えて、「暴力の雨を降らせないで」「暴力の雨を防ぐ」「暴力の雨から守る」などの願いを込めて、大きな傘のイラストをレイアウトしました。

来館者には、女性に対する暴力に関するメッセージを書いて貼っていただき掲示しました。

- ・個人的なことは社会的なこと。あなたは悪くない！あきらめないで相談を。
- ・暴力は相手を支配すること。人権を侵す行為。暴力はダメ！絶対！！
- ・自分の身になって考えてみよう。DVやめよう！

ヒューマンライブラリー りいぶる '24

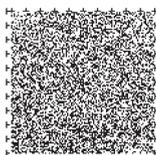


日時：令和6年12月1日(日)  
会場：“りいぶる”図書・交流スペース  
“りいぶる”会議室A

ヒューマンライブラリーとは、「人を貸し出す図書館」。語り手を「本」になぞらえ、図書館で本を読むように直接対話することでお互いに理解を深め、生きている「本」を楽しむものです。

今回は、世界を飛びまわりつつ和歌山県の歴史と文化を発信する学芸員の方、不登校経験があり現在は支援スタッフをしている方、専業主婦から起業した方の3人が「本」となって話してくださいました。また、終了後には「本」と「読者」の交流会をもちました。

【参加者の声】「さまざまな“本”との出会いから自分の視野も広がったように思いますし、新たな考えが深まる時間でした」「心地良い雰囲気の中“本”に集中でき、様々なジャンルの本との出会いが新鮮でした」



## りいぶる 図書室

スタッフおすすめの本をご紹介します

## 思わず考えちゃう



著者：ヨシタケシンスケ  
出版社：新潮社

日頃のちょっとした心の引っかかりを綴ったヨシタケワールド全開のスケッチ解説エッセイ。「そういうことあるある」とクスツしたり、「それはちょっと違うかも」と首をかじげたり…共感できるところもできないところもひっくり返して愛おしい。ユーモア溢れるイラストも相まって、読むとほっこりした気持ちになれる一冊。

見方を変えれば世の中おもしろい。人にも自分にもちょっとだけやさしくなれるかも！

## ジェンダーで読み解く



男性の働き方・暮らし方  
ワーク・ライフ・バランスと  
持続可能な社会の発展のために  
著者：多賀太  
出版社：時事通信社

女性の社会進出とともに男性の家事・育児参画の促進は、男性の生きづらさの解消にも繋がると述べる著者。根強く残る『男は仕事、女は家事』のような性別役割分業解消だけでなく、「男らしさ」「女らしさ」の思い込みを解き放ち、男性自身もセクハラやDVへの理解を広げ、声を挙げていくことで誰もが安心・安全な環境で暮らしていくことができると提言している。

男性たちの気持ちに寄り添いながら進む話が心地良い。

## 彼女たち



著者：桜木紫乃  
写真：中川正子  
出版社：KADOKAWA

直木賞作家と人気写真家がコラボした、やさしいフォトストーリー。

孤独だった「イチコ」、家事や子育て、仕事をちょっと休みたい「モネ」、愛するパートナーとの別離を超えていく「ケイ」の3人のストーリー。写真はどれも温かな光と空気をまといながらそれぞれの生活を切り撮る。つまづかない人生なんてない。そんな心に寄り添う3つの短編。日常にふと立ち止まりたくなつた誰かに、そっと差し出したい一冊。



「みんなにジェンダー平等」提案事業 今年度も5団体が採択されました!!

「カラコエの花」  
映画鑑賞会

企画・運営 LGBTQと愉快的仲間たち

令和6年9月28日(土)  
会場：和歌浦芸術区

LGBTQ当事者が自分らしく生きていく難しさやそれを知った周りの人たちの対応について考えてもらうため、高校のクラスを舞台に描く短編作品の映画鑑賞と、パネルディスカッションを実施しました。



世の中に散らばる  
ジェンダー不平等にクローズアップ!  
女性の一生の「ハテ?」について  
考えてみる ~虎に翼より~

企画・運営 cocoro サポート・ネット  
「カミーニョ」

令和6年12月7日(土)  
会場：“りいぶる”会議室C

講師：鳥淵朋子さん(アクト研究室代表)  
女性が体験する「ジェンダーによる不平等」について、リアルな女性像が主人公のドラマ「虎に翼」を材料に、主人公が感じる「社会のおかしさ・不平等感」をワークショップ形式で話し合う講座を開催しました。

## 性教育講座

高校生に正しい性の知識を!

企画・運営 「からだの権利」教育を  
推進する助産師の会

令和6年12月5日(木)・20日(金)  
令和7年1月9日(木)・22日(水)  
会場：県紀北地域の高等学校4校

高校生の性の知識不足、性犯罪の増加、望まない妊娠などの社会問題がある中、高校生に性の正しい知識を持ってもらい、自分だけでなく他者の心と体も守る意識につなげる講座を実施しました。

## 真道ゴー氏講演会

「性」を知り、「生」を考える  
～自分らしく生きるために～

企画・運営 SAYHELLO. WAKAYAMA  
(セイハロー・ワカヤマ)

令和7年1月18日(土)  
会場：“りいぶる”会議室A

講師：真道ゴー氏

講師が人生のなかで体験してきた様々な性の多様性やジェンダーの観点についてのエピソードをあげ、「悲しさ、辛さを知っているからこそ幸せを感じられる。踏ん張るからこそ見える世界がある」という人生観を語られました。

## 私たちだって

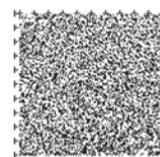
“いいふうふ”になりたい展  
in 和歌山 2025

企画・運営 特定非営利活動法人  
チーム紀伊水道

令和7年2月8日(土)・9日(日)  
会場：“りいぶる”会議室A・B・C

戸籍上の性別が同じであるため、法律上の結婚ができないカップルたちの困りごとや、より安心して生きるための方法、カップルたちの想いを展示。また和歌山県パートナーシップ宣誓制度第1号申請カップルによるトークイベントなどを行いました。

来年度も「提案事業」を  
募集予定です。  
みなさまのご応募、  
お待ちしております。



# “りいぶる” 相談室 相談受付専用ダイヤル

## 073(435)5246

相談は無料。専門の相談員がお話を伺います。  
予約は、希望者本人に限ります。秘密は厳守します。ナンバーディスプレイは使用しておりません。

**総合相談** 家庭や職場のこと、生き方への不安など、様々な悩みや相談に男女共同参画相談員が応じます。

### 電話相談

☎(水)木(金)土○ 9:00～20:30 (受付は20:00まで)  
○○○○○日 9:00～17:00 (受付は16:30まで)

### 面接相談【要予約・女性のみ】

☎(水)木(金)土○ 9:00～17:30 (受付は16:30まで)  
○○○○○日 9:00～16:00 (受付は15:00まで)

### 女性のためのカウンセリング

女性が抱えるところの問題に女性カウンセラーが応じます。

### 女性のための法律相談

夫婦、財産相続、金銭問題等、女性にとって身近な法律上の問題に女性弁護士が応じます。

### 男性のための電話相談

職場のストレスをはじめ、夫婦・家族・人間関係などの様々な問題に男性相談員が応じます。

### 面接相談または電話相談

○○○金○○ 13:00～15:40  
※原則毎月第2・第4金曜日

要予約(匿名可)、各日3人まで。  
相談時間は1人40分。

### 面接相談のみ

毎月2回(不定期)13:00～14:50  
※日程は“りいぶる”までご確認ください。

要予約、各日3人まで。  
相談時間は1人30分。

○(水)○○○○ 16:00～20:00

(受付は19:30まで)

※原則毎月第2水曜日  
予約優先(匿名可)  
1日5人、相談時間は1人40分。

## LGBTQ 相談

レズビアン(L)・ゲイ(G)・バイセクシャル(B)・トランスジェンダー(T)など、様々な性的指向や性自認の方のための専門相談窓口を開設しています。本人からの相談だけでなく、ご家族や友人、職場の関係者など周りの方からの相談もお受けします。秘密厳守、匿名での相談も可能ですので、安心してご相談ください。

**面接相談または電話相談** ○○○○(土)○ 14:00～18:00

※原則毎月第1土曜日/要予約(匿名可)/1日4人、相談時間は1人40分。

令和7年度の相談日(予定): 4/5, 5/24, 6/7, 7/5, 8/2, 9/6, 10/4, 11/1, 12/6, 1/24, 2/7, 3/7



性暴力について相談したい…

## 性暴力救援センター和歌山 わかやま mine

(和歌山県立医科大学附属病院内)

### ◆相談受付専用ダイヤル

オーエンキューキュー  
073-444-0099

- 電話相談 24時間365日  
(但し、22時～翌朝9時と年末年始はコールセンターでの対応となります)
- 面接相談 9時～17時45分 ※要予約、土日・休日・年末年始を除く
- 緊急医療 24時間365日

ここからからの回復のために、女性支援員が細やかな支援を行います。  
ひとりで悩まずに相談してください。



## ◆発行◆ 和歌山県ジェンダー平等推進センター “りいぶる”



和歌山ビッグ愛の9階にあります!

りいぶる

### ★LINE アカウント★

「りいぶる」で検索してね!

LINE“りいぶる”公式アカウントはこちら

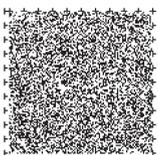


フェイスブックも更新中

### ☆表紙デザインについて☆

作者の浦谷真夕さんは、漫画を描くことが好きなこども時代を過ごすなか絵を独学で学び、(公財)和歌山県人権啓発センターの啓発資料制作、和歌山市男女共生推進センター『みらい』広報誌の4コマ漫画制作などに携わりました。現在は、生まれ育った和歌山を離れ、兵庫県で子育てをしつつ、趣味として楽しみながら絵を描いています。

表紙イラストは、春から夏にかけて順番に食べ頃を迎える和歌山の柑橘たち、八朔・デコポン・三宝柑・夏みかんです。それぞれ味は違って、収穫時期も少しずつ違う、まるで柑橘たちのリレーのようで面白いなと思いながら描きました。



〒640-8319 和歌山市手平2丁目1-2  
県民交流プラザ和歌山ビッグ愛9F

TEL 073-435-5245 FAX 073-435-5247

E-mail: libre@sirius.ocn.ne.jp

【開館時間】 火曜～土曜: 午前9時～午後9時  
日曜: 午前9時～午後5時30分

【休館日】 月曜・祝日・年末年始(12/29～1/3)